

## 茨城県におけるWUポリオーマウイルスおよびKIポリオーマウイルスの検出状況

○後藤慶子, 永田紀子

茨城県衛生研究所

**【目的】**WUポリオーマウイルス(WUPyV)およびKIポリオーマウイルス(KIPyV)は、2007年に呼吸器感染症に罹患した小児から発見されたウイルスである。当所では、不明症例を対象に次世代シーケンサーを用いた病原体検索を実施しており、上気道炎を呈した小児からWUPyVを検出した。現在のところ、両ウイルスの呼吸器感染症への関与や検出状況は不明な点が多いことから、今回、茨城県において呼吸器感染症が疑われた症例を対象に、WUPyVおよびKIPyVの検出を試みた。

**【材料と方法】**2020年1月から6月までに茨城県感染症発生動向調査事業の一環で、新型コロナウイルス感染症が疑われた症例(濃厚接触者、陰性確認は除く)の咽頭拭い、鼻腔拭いまたは鼻咽頭拭い3851検体を対象とした。WUPyVおよびKIPyVの検出はリアルタイムPCR法により実施し、WUPyVまたはKIPyVが検出された検体については、他の22種類の呼吸器病原体についても検出を行った。

**【結果】**WUPyVは15症例から検出され、内5症例は他の呼吸器病原体(HRV, HCoV-NL63, HCoV-HKU1, HCoV-229E, HBoV)も検出した。KIPyVは19症例から検出され、内3症例は他の呼吸器病原体(RSV, HCoV-229E, M. pneumoniae)も検出した。

**【まとめ】**WUPyVおよびKIPyVは小児の呼吸器感染症として知られているが、成人からの検出を認め、WUPyVまたはKIPyVのみを検出した症例も確認された。現在、それらの症例について、細菌病原体の検出を試みている。